

日本語フィクションの英訳における役割語の取り扱われ方

菅谷 風太

(言語文化学部 英語専攻)

キーワード: 英語, 役割語, フィクション, キャラクター, 日英対照

0. はじめに

本稿では、日本語フィクションにおける「役割語」がその英訳においてはどのように扱われるかを考察する。以下、第1節で「役割語」に関する背景知識を概説し、第2節で関連する先行研究を概観する。第3節において研究の概要を、第4節で研究の方法と結果を記述したのち、第5節で結論および今後の課題を示す。なお、例文・表の番号および例文に付された日本語訳は断りのない限り筆者によるものであるが、引用文における傍点は全て原文ママである。

1. 「役割語」の定義

本稿で筆者が扱う「役割語」は金水 (2003) によって提唱されたものであり、具体的には以下に引用するような定義が与えられている。

ある特定の言葉づかい (語彙・語法・言い回し・イントネーション等) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等) を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。

(金水 2003: 205)

ここで、金水 (2003: 205) は「言葉づかい」という表現について「専門的には話体 (スピーチ・スタイル) といった方がいいだろう」としている。役割語の日本語における位置づけに関して、金水は以下のような記述をしている。

たとえばあなたは、「そうじゃ、わしが博士じゃ」という博士に会ったことがありますか? 「ごめん遊ばせ、よろしくってよ」としゃべるお嬢様に会ったことがありますか? そんなものは、どう考えても今の日本には存在しませんね。

(金水 2003: vi)

金水 (2003: vi) はこれを踏まえ、役割語に関して「現実の日本語とは別の、でも確かに存在する日本語という意味で、“ヴァーチャル日本語”」であるとしている。

2. 先行研究

本節では、日本語の役割語と英語の関係性に関する研究を行った山口 (2007) および、日本語のスペイン語訳における役割語の取り扱い方をテーマとした福畠 (2012) を概略する。

2.1. 山口 (2007)

山口 (2007: 9) では英語のフィクションに関して、人称代名詞に「強い制限があり、文末表現に乏しい」ために「語彙的手段によって登場人物の役割を明示しづらい」ことが指摘されている。山口 (2007: 10) はその中で後述するように役割語が創出されているということ論じるほか、役割語が「読者に対して効率よくわかりやすい伝達をおこなうという普遍的な必要性に動機づけられている」こと、「孤立した文体现象」ではないということも論じている。

山口 (2007) はまず、小説『ハリー・ポッター』シリーズに登場する老教授「ダンブルドア」の会話文を例示する¹。

- (1) “His aunt and uncle will be able to explain everything to him when he’s older. I’ve written them a letter.”
- (2) 「伯父さんと伯母さんが、あの子が大きくなったらすべてを話してくれるじゃろう。わしが手紙を書いておいたから」

(山口 2007: 10-11)

上記の会話文において、日本語訳 (2) では原文にない特徴づけがなされていることが指摘されている。山口 (2007) は役割語が英語においても存在するという立場を取るが、英語が人称詞や文末表現のオプションを欠くことから、日本語のような多様性は見られないとした上で、以下の4種類を英語における役割語の例として示している。

第一に、方言話者のことばがある。「音声的特徴を忠実に再現すると、あまりに読みづらく、一般読者の理解に支障をきたす」(山口 2007: 13) ことから、読者にそれとわかる程度に方言的要素を選択的に提示する形で記す視覚方言 (eye dialect) と呼ばれるスタイルが取られるとされる。方言話者の特徴づけは非標準的つづりという正書法に対する破格を用いることから、当該登場人物が教養に欠けるという印象を与えることが指摘されている。

第二に、ピジン英語が挙げられている。ピジンとは移民などが用いる簡略化された言語のことであり、英語では冠詞や主語の省略によって特徴づけられる。このような特徴づけを山口 (2007: 16) は「引き算式」と表現し、「個性的な人称詞」と「特徴的な文末表現」の組み合わせによる日本語の役割語と「好対照をなす」と指摘している。

¹ 引用文 (1) は J. K. Rowling, *Harry Potter and the Philosopher’s Stone* により、(2) は J. K. ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』(松岡佑子 (訳)) による (山口 2007: 10-11)。

第三に、1人称と2人称を3人称化させることによって、発話者とその相手の上下関係を示す表現がある。山口 (2007: 19) は英語が日本語と違って固定化された人称体系を持っていることを指摘し、その人称の体系をスライドさせることによってこのような発話が特徴的な文体を獲得したとしている。

第四に、音声的特徴を綴りで表現することによる役割語が指摘されている。例えば、幼児性を表現するために /th/ や /s/ が /t/ に交替するような現象である。山口はこれを「幼児語に見られる音声的特徴を引き継いだ」とし、更に /t/ 音の多い発音を「さえずり系の動詞 (*tweet, twitter*) を想起させる」と指摘する (山口 2007: 20)。

山口 (2007: 21) は以上の4例を概略した上で、「豊富な人称詞と文末表現を組み合わせ、『足し算式』にバリエーションを作ることができる」日本語の役割語に比べて、英語の役割語は「創出のオプションに乏しいというハンディキャップを背負っている」としている。

2.2. 福嶋 (2012)

スペイン語における日本語の役割語の翻訳について研究を行った福嶋 (2012) を検討する。福嶋 (2012) は役割語について「博士語」「お嬢様語」「武家語」「異人語」および性差による話体の違い、非標準語、発声困難な話者の発話という7項目のカテゴリを挙げた上で、スペイン語訳上での取り扱いに関して研究を行っている。福嶋 (2012) はそのカテゴリに含まれる役割語を横断的に複数の小説・漫画作品から抜粋し、そのスペイン語訳を検討した上で傾向をまとめている。この際、必要に応じて日本語以外を原作とする作品のスペイン語訳や、スペイン語圏において書かれた作品の検討も行われている。

福嶋 (2012) では、スペイン語における役割語に関して、話者の時代性や非母語話者であるという表現を標準的な文法を変化させることによって行うことがある一方で、「博士語」「お嬢様語」などのステレオタイプを示す役割語は一般的ではないという結論を呈している。

3. 研究の概要

前節で述べたように、役割語と他言語の関係性に関してはスペイン語訳における研究がすでになされていた。一方で英語との関係性については、英語からの翻訳における取り扱いや英語においてどのように役割語が表現されるかに関する研究は既になされていたが、管見の限り「日本語の役割語がどのように英訳されるか」という研究は行われていない。このため、日本語の文学作品をその英訳版と比較検討し、日本語フィクションにおける役割語が英訳ではどのように取り扱われているかを検討することを本研究の目的とする。

本研究では、金水 (2003) および福嶋 (2012) をもとに、以下の4つのカテゴリを特に取り上げた上で、カテゴリごとに調査を行う。

表 1: 本稿での役割語のカテゴリ

番号	カテゴリ	概要
1	社会的属性を示す役割語	話者の社会的な属性によって形成される役割語
2	非標準語	方言や「田舎言葉」など
3	異人語	福嶋 (2012) における分類ではピジンの表現を主に扱う
4	発声困難な話者の発話	正常な発話に支障がある話者の発話

4. 研究方法と結果

本稿では、金水 (2003) や福嶋 (2012) を参考に、主に英訳版が出版されているような近代の文学作品を中心に日本語の原典を検討し、取り扱う役割語が文中にあった場合に対応する部分の英訳と比較するという方法で研究を行った。以下、4.1 節で「社会的属性を示す役割語」、4.2 節で「非標準語」、4.3 節で「異人語」、4.4 節で「発声困難な話者の発話」を検討する。取り扱った資料は主に 1900～1960 年代に原典が発表された文学作品であるが、4.4 節では漫画作品も 1 作品検討している。

4.1. 社会的属性を示す役割語

表 1 の分類 1 の中で、まず「お嬢様語」に分類される役割語が英訳ではどのように取り扱われるかを検討する。金水 (2003: 149-150) は、現代における「お嬢様ことば」の起源を明治時代の若い女性の話し方に求め、金水 (2003: 155) において文学内におけるそのような言葉遣いの発話の例として『吾輩は猫である』第 10 章の一部を引用している。これを基に、同作第 10 章を調査資料として設定し、金水 (編) (2014: 243) 『<役割語>小辞典』の索引において「お嬢様ことば」とされている単語を「お嬢様語」と扱うこととした。感動詞「あら」「ほほほ」が合計 16 例、助詞「こと」「て」が合計 15 例抽出された。

感動詞の英訳においては、感動詞を省略して訳する例が 5 例、英語の感動詞を当てはめる文が 5 例あった。後者のうち 1 例は英語の感動詞を含む感嘆文で、このように感嘆文に訳出されているケースは全体では 2 例であった。発話部分を平叙文として訳している例が 2 例見られた。

更に特殊な例として、会話文の形式を保ちつつ、語彙的に大きく変化している文が 1 例見られる。

(3) あらいやだ。よくてよ。知らないわ。

(夏目 2011: 426)

(4) What a thing to say!

(Natsume 2002: 377 Ito and Wilson (tr.))

(3) にある「よくってよ。知らないわ」は、本作が発表された明治期における「女学生の流行りことば」(金水 2003: 155) である。しかし英訳は直訳ではなく、単に文意のみを取った「とんでもない!」という慣用句に訳されており、他の訳と比較して逐語的ではない。

以上より、感動詞による役割語は感嘆文または感動詞によってその文意を反映することが多いものの、感動詞が省略されることも多く、その取り扱いは一定していない。

助詞に関して、(3) および (4) の特殊な 1 例を除くと、残る 14 例はいずれも話者を指し示す外延を含まず文意のみを引き継いだ英訳となっていた。

以上のことから、今回の調査資料において現時点で以下の傾向があると判断する。

- (a) 主に感嘆を示す役割語は感嘆を示す意図を保って英語でも感嘆語に訳出されることもあるが、話者のステレオタイプは指し示されることがない。
- (b) 単に話者のステレオタイプを与えるのみの助詞については、助詞そのものが社会的なステレオタイプを示すことのない英語においては反映されていない傾向にある。

一方、示されるステレオタイプによっては英訳においても性質を変えて反映されることがあり、例えば特定の人物が無教養であることを示すためにミススペルや文法的な誤りを含めて訳される事例がある。英語方言の描写における非標準的つづりは当該話者が「教養に欠けるという印象をいやおうなく与えてしまう」(山口 2007: 13) が、「無教養」というステレオタイプの表現ではこのように正式なつづりを崩すことが表現に寄与していると言える。

このように、話者の社会的属性を示す役割語については、標準的な文法に影響するステレオタイプの表現では反映されることがあるが、そうでないステレオタイプにおいては表現によって示されることが少ないと言える。

4.2. 非標準語

本節では、表 1 にある「非標準語」の英訳での取り扱いに関して検討する。まず、川端康成著『古都』や宮沢賢治著『なめとこ山の熊』においては、登場人物は全体を通して方言で発話するが、英訳ではどちらの作品も、発話文そのものには地域性が見られない。このことから、英訳においては、単に作品の持つ地域性を示す方言の使用は、社会的属性を示す表現と同様に訳出において考慮されない傾向を現時点で指摘することができる。

方言そのものの使用が発話の中心となる文章を含む作品である夏目 (2010 [1906]) 『坊っちゃん』とその英訳を検討する。夏目 (2010 [1906]) では、主人公が教師として赴任する四国の学生や住民の発話に愛媛方言の語彙が含まれる。中でも多く使われているのが「-な、もし (なもし)」という文末表現である。これは「-ねえ」にあたる表現で、「な+申し」からできたとされ、目上の人に対する謙譲語として使用される (山下 2012)。

この文末表現の取り扱いに関して、英訳と比較し検討すると、文末表現「-な、もし (なもし)」は 58 例あり、発話者は旧制中学校の生徒が 6 例、それを引用した主人公が 2 例、主人公の下宿の夫人が 50 例である。このうち、下宿の夫人の発話はいずれも文意のみを引き継いだ会話文または地の文への英訳がなされており、方言的な語彙は用いられていなかった。

他方、旧制中学校の生徒の発話においては、文意のみを引き継いだ地の文および会話文への英訳が 1 例ずつなされていたが、残りの 4 例に関しては以下のような語彙的特徴が見られた。

(5) (前略) 一寸この問題を解釈をしておくれんかな、もし、(後略)。

(夏目 2010 [1906]: 32)

(6) “A-ah say, won’t you please do them for me?”

(Natsume 2012 Mori (tr.))

(6) では原文における方言的な語彙の代わりに、ah や間投詞的な用法での say を使うことで、主人公から見た特徴的な発話が表現されていると考えられる。更に顕著なのが以下の例である。

(7) 第一先生を捕まえてなもした何だ。

(夏目 2010: 47)

(8) In the first place, what do you mean by answering your teacher “A-ah say”?

(Natsume 2012 Mori (tr.))

(7) は教師である主人公が、自らの詰問に対する生徒の受け答えを批判する文脈である。ここで、主人公は生徒が教師に対して方言を使用しているのは不適当なことであると批判しており、「-なもし」はその象徴に位置づけられている。一方英訳では、間投詞的な say のように口語的表現を使うことで、生徒の話体がインフォーマルであることを表現している。

以上から、非標準語の英訳においては、それが標準語と対比してどのような印象を与えるかが訳出に影響しており、今回の調査範囲では単に地域性を示すために英語における訳文が方言的性質を帯びることは皆無であるという傾向を現時点で指摘することができる。

4.3. 異人語

第三に、福畠 (2012) において異人語として扱われるピジンの表現の翻訳を考えるため、宮沢賢治著『山男の四月』を検討する。金水 (2003: 182) における「異人」は「最初から現代の日本人ではない存在として位置づけられるものたち」と定義されるため、それを示す役割語は複数の種類を持つと考えられるが、ここではピジンの表現を主に取り上げる。本作には中国人が登場し、以下の例文 (9) のような発話をする。

(9) 「あなた、この薬のむよろしい。毒ない。決して毒ない。のむよろしい。わたしさきのむ。心配ない。わたしビールのむ、お茶のむ。毒のまない。これながいきの薬ある。のむよろしい。」

(宮沢 2005a [1924])

ここで、(9) の発話では頻繁に助詞を省略するという特徴が認められ、2 つの特徴的語彙も認められる。1 つは名詞の後につく「ある」である。これは名詞などの後ろに付加される文末表現である (金水 (編) 2014: 20)。動詞に「よろし (よろしい)」を付加して命令、依頼、許可などを示すのもこの発話の特徴である。両表現は、戦前・戦後を通じて現代に至るまで中国人的な発話の表象として用いられている (金水 (編) 2014: 197)。

これを踏まえ、(9) の発話の英訳を検討する。英訳は以下のようになっている。

- (10) “You—you take medicine. No poison. Absolute no poison. Swear no poison! You take! Me take too—no worry. Me drink beer, drink tea—no drink poison. This medicine for long life. You take!”
(Miyazawa 2018 Bester (tr.))

(10) は標準的な英語文法にそぐわない部分を複数含んでいる。まず、「毒はない」という発話においては *there is* という文頭の表現が省略されており、主語 *I* がしばしば目的格 *me* に変化するか、もしくは省略されている。省略は冠詞 (*for long life* に例が見られる) にもおよび、否定の *do not* も *no* に変化している。

このように、助詞を省略することによって発話者が「異人」であることを示す役割語は、英訳でも文法上必要な要素を省略し、もしくは意図的に変化させることによって表現されることがある。

4. 4. 発声困難な話者の発話

本節では、発話者が何らかの理由で発話に困難を生じていることによって、発話が不明瞭になっている場合の英訳での取り扱いを検討する。尾田栄一郎作の漫画作品『ONE PIECE』より例文を抜粋する (カッコ書きは原文ママ)。

- (11) なカバ (仲間)……ダндаよ

(尾田 2012 [2000])

- (12) BY FREMS... (MY FRIENDS) THEY'RE BY FREMS.

(Oda 2007)

(11) および (12) は寒さのために発話者が正常な発音をできていない場面で、/m/ や /n/ の交替が行われている。このように、音声的特徴を示す発声の困難さの表現は、英語でも子音交替を行った形のスペリングで表記することで表現されることがある。

4. 今後の課題

現段階では調査範囲の多くが小説に限られており、漫画作品は 1 作品を検討したのみである。このため、漫画作品では新たな傾向が出現する可能性は否定できない。特に 4.4 節において触れたように、漫画作品では文字のレイアウトの自由度が非常に高いことから、小説

作品では可読性の制約で実現できないような表現であっても、漫画作品では行うことができる可能性がある。

更に、小説・漫画とも表現は視覚要素によるため、音声要素によって表現が行われるテレビ・ラジオドラマや映画では別の傾向を呈する可能性がある。今後、様々な作品を検討することによって、今回結論とした傾向がより客観的なものとなり、場合によっては別の可能性が示されうると筆者は考えている。

参考文献

- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 東京: 岩波書店.
- 金水敏 (編) (2014) 『<役割語> 小辞典』 東京: 研究社.
- 福寫教隆 (2012) 「スペイン語の「役割語」: 日本語との対照研究」
https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1396&file_id=22&file_no=1
[2021 年 7 月 8 日アクセス].
- 山口治彦 (2007) 「役割語の個性性と普遍性 一日英の対照を通して」 金水敏 (編) 『役割語
研究の地平』 9-25. 東京: くろしお出版.
- 山下暁美 (2012) 「愛媛の方言、あなたはなんぼわかる?」
<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/chiikigo199> [2021 年 8 月 16 日アクセス].

調査資料

- 川端康成 (1962) 『古都』 東京: 新潮社.
- Kawabata, Yasunari (2006) *The Old Capital*. Holman, J. Martin (tr.). California: Shoemaker & Hoard.
- 宮沢賢治 (2005a [1924]) 『山男の四月』
https://www.aozora.gr.jp/cards/000081/files/43758_17942.html [2021 年 9 月 19 日アクセス].
- 宮沢賢治 (2005b [1934]) 『なめとこ山の熊』
https://www.aozora.gr.jp/cards/000081/files/1939_18755.html [2021 年 9 月 19 日アクセス].
- Miyazawa, Kenji (2018) *Once and Forever: The Tales of Kenji Miyazawa*. Bester, John (tr.). New York: The New York Review of Books. Kindle ed.
- Natsume, Soseki (2002) *I Am a Cat*. Ito, Aiko, and Graeme Wilson (tr.). Tokyo: Tuttle Publishing.
- 夏目漱石 (2010 [1906]) 『坊っちゃん』 東京: 新潮社.
- 夏目漱石 (2011 [1907]) 『吾輩は猫である』 東京: 新潮社.
- Natsume, Soseki (2012) *Botchan (Master Darling)*. Mori, Yasotaro (tr.). Urbana, Illinois: Project Gutenberg. <https://www.gutenberg.org/ebooks/8868> [2021 年 8 月 16 日アクセス].
- 尾田栄一郎 (2012 [2000]) 『ONE PIECE カラー版』 16. 東京: 集英社. Kindle ed.
- Oda, Eiichiro (2007) *ONE PIECE*, 16. California: VIZ Media. Kindle ed.